

---

 会長からのメッセージ
 

---

# 「グローバル化と人づくり」



電気通信大学 教授  
鈴木 和幸

本学会は、設立 40 周年を迎えます。この間に Made in Japan を高品質の代名詞とした日本の品質管理 TQM の理念と体系は、産学共創活動を通して、今や欧米のみならず新興国へと伝わり、全世界の品質レベルの向上に大きく貢献してまいりました。

一方、グローバル化がさらに進む今日、生産のみでなく市場も中国・インドなどの BRICs をはじめとする新興国へと広がりました。新市場の中産階級層をターゲットとする“品質”の再定義、すなわち現場からの“顧客ニーズ”を的確に収集し、真の“顧客満足”を究明し、その達成への“戦略”を産官学が一体となり進めていく必要があります。このとき、使われ方、環境、文化・慣習の全く異なる条件下での「Q の確保」への真摯な取り組みが重要であることはいうまでもありません。グローバル化の下でも魅力的品質に加え品質と安全性は絶対に譲らない TQM の理念と体系をさらに洗練していきたいと思えます。

これらの世界経済・経営が激変する中、科学技術立国を担うわが国の将来の理数系人材育成は、産官学で取り組むべき喫緊の課題です。60 年代から 80 年代にかけて日本の技術競争力大躍進の背後にあった、統計的問題解決法は、90 年代より問題解決とイノベーション創造のための 21 世紀型ソフトスキルとして、海外において広く普及定着し、特に、米国・カナダ・英国・豪州などの初等中等教育の場で体系的な教育がなされています。これに出遅れたわが国は 2008 年から 2010 年にかけて新学習指導要領を改訂し、“いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判

断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力をはぐくむ「生きる力」がようやく理念として謳われました。受験目的ではなく、実社会における問題の解決に資するよう、本学会では、TQE 特別委員会を設け、小 1 から高 1 までの一貫した問題解決型の統計教育体系の構築、表彰制度の制定、問題解決の副教材の作成などに努めてまいりました。特に教科書・指導書への問題解決法の折り込み、文科省教科調査官・指導主事の方々との情報共有を推し進めております。

JSQC 40 周年を迎えるに当たり、上記のグローバル化への対応と人づくりに焦点をあて、記念シンポジウムを開催します(2011 年 5 月 27 日、於電通大)。テーマは「グローバリゼーションを見据えたモノづくりと人づくり」であり、桜井正光氏、狩野紀昭氏、巖浩氏の講演、大沼邦彦氏、中條武志氏をはじめとするパネル討論を予定しております。奮ってご参加ください。

さて、会員満足度調査アンケートをメールアドレス登録会員 2,410 名に対して実施し、学会活動への評価、会員からの要望をまとめました。これに基づき文献紹介コーナーを「品質」誌に設け、また、産学連携の強化・拡大を目指し、会員情報データベースの構築、共同研究のテーマの登録など、産学連携の研究のさらなる推進を検討してまいりました。これらのうち、会員情報データベースは 2010 年 12 月 27 日より運用開始となりました。

技術立国として日本がさらに発展し続けるために、産学連携という本学会の強みを生かし、会員各位と共に進みたいと思えます。今後ともよろしくお願い申し上げます。